序

過ぎ去つた事象が、将来の進歩に対して意義をもつということは、反省とそれにもとづく改革とが、つねに原動力となるからにほかならない。その反省は、過去および現在の、公正に記録された教育施策の正確な資料とによつてなされるべきであろう。

本書も、こうした目的をもつて公判したものであるが、将来の発展のために有効な役割を果たすことを期待している。しかしながら、本書の内容は昭和三十二年を中心とする教育のあゆみのほんの一端にすぎない。

各位の善意と厳正なる批判とによつて本書があまねく活用され、将来へのよき資料となれば幸いである。

昭和三十三年三月

教育長　佐藤　光